

第6回 大津市立幼稚園再編等検討委員会 議事録（要旨）

1 日 時 令和8年1月15日（木）9時～10時55分

2 会 場 大津市役所 別館1階 大会議室

3 出席者 委員 山縣委員長、中井副委員長、井上委員、大橋委員、狩野委員、小森委員、佐竹委員、中森委員、早藤委員

（欠席）藤井委員

事務局 こども未来部長、こども未来部次長

こども・若者政策課長、課長補佐、政策推進係係長、政策推進係主査、政策推進係主任、幼保支援課長、幼児教育指導監、保育指導監、市立幼稚園園長

4 傍聴者 なし

5 議 事

（1）大津市立幼稚園再編等計画の策定について

6 会議録（要旨）

（1）議事

※議事の公開・非公開については、公開とされる。

委員長：まず最初に前回の振り返りを事務局からお願いする。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いする。
～特になし～

委員長：次に、計画素案について、事務局から説明をお願いする。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いする。

基本はこの提案がまとめれば、それを中心に市の方で進めていただくという前提になる。社会情勢の変化に応じて見直すことがあり得るというところが、ポイントになるかなと思う。子どもたちの人数だけではなくて、様々な周辺の関係施設の動き等を含めて、見直しがあり得るということが、追加された主な内容ではないかなと思う。

委員：令和17年度までは再編を行わないというのは、園児が増加しているところはそれでいいが、「中間見直しにおいて社会情勢の変化を受けて時代に応じた市立幼稚園のあり方を再度十分に検討を行います」というのは、そこまで待たないといけないということか。必要性というのは今もあるが、今は幼稚園の再編のみを考えてくださいと言

われているので考えている。滋賀県でも認定こども園がないのは大津市だけで、全国でもほとんどある。その状態で、「中間見直し時点において」という文言が必要なのか。もう早速にでも、これが決まつたら、再編するときに、こことここのことを考えましょと、再編等検討委員会のことを中心に置きながら、また市長さんのお考えとか受けて、ここに加速されていくということもあり得るのか。ありえて欲しいと、私は思っている。社会情勢がものすごくどんどん進んでいるのに、大津だけが何でこんなに遅れているんだろうと正直なところ思っている。

この中間見直し時点というところの言葉が必要なのかどうか。

委員長：委員の皆さんはどうお考えか。

委員：現場の肌感として、確かに12年に見直しをすると決めてしまうと、そこまで見直しを行えないのかということにもなるかなと思う。それまでにやっぱり何とかしなきゃいけないという事態が起こったときや、そのときはどう対応するのかというのがこの文章からはちょっと読み取れないので、先ほど委員がおっしゃったように、ここにその期限というか、中間見直しとして位置づけることが要るのかなということは、私も感じている。

委員長：賛成の意見が出ているので、表現はちょっとどうするのか。中間見直しという言葉が何も出てこないと違和感があるので、例えば、中間見直しを含めとか、前後でもあり得るというニュアンスが出る文章にするあたりで検討いただきたい。中間だけではないという趣旨が伝わるように、この修正をお願いする。

委員長：次に、市立幼稚園の園児数の推移及び特徴について、事務局から説明をお願いする。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いする。

物理的な環境だけでなく、それぞれの園が頑張ってこられたポイントを含めた再編が必要ではないかというところでこの資料を作成いただいている。

この資料は、最終報告書として扱うのか？

事務局：まだ決定はしていないが、園の特徴の資料を報告書の参考資料としてどこまで盛り込めるか検討していく。

委員：すごくみんなそれぞれ良い幼稚園で、どれもなくすのはもったいないという感じがする。もしもこれでなくなってしまう幼稚園があったら、そのあとのこと、何か子どもたちが遊べる公園にするとか、そういうことをもうちょっと考えていただきたい。多分、今は、災害のときの避難場所になっているのかなと思うが、この管理とか使い方というところもちょっと考えていただけたら、そしたらしょうがないかなとか、親が一緒にいたらそこでは昼間小さい子どもも遊べるように、遊具だけはちゃんと置いと

きますとか、そのような使い方もいいのかなと思う。

委員長：重要なご指摘である。跡地を含めた活用について、報告書の最終のところでは書けるかもしれないが、報告書の途中の本文に入れると、かなり複雑になりそうな気がする。ただ、非常に重要なことだと思う。住民の方々と話をしながら、活用も考える必要があるということを、どこか最後の方に入れるということは可能かと思う。

委員：話を聞いていて、まさにそうだなと。なくなってしまうという悲しみと、そして、その上、それが廃墟のようになっていくと、何度もやられてしまう感覚を、地域住民の立場で言うとそれはものすごく残念なこと。最初はこの検討委員会で話し合っている内容が、一般市民からすると、なくなるための話に見えるが、そうではなくて、何度も言っていて皆さんにそれに答えてくださっているみたいに、実際にこのままでいくのは市の財政的にも難しいし、建て直しも難しいから、子ども少ないからまとめていこうね。ここの学区が、ここの幼稚園がどうなっていくか。それで中学校区になってというのは、考えてくださった通りで、なくなったと市民にも思わせないような結果にならないといけないなと思う。なくなったというのではなく、こんな事情があって、こことここと合体したんやで、だから、私たちのところがなくなったのではないんやでというのも、ずっと初めからそういう結末を迎えることだけをすごく強く思っている。それに関して、もしそこの建物がどうなるか分からなかったり、廃墟になってしまったりするということは、絶対にあってはならないことなのかなというのを改めて思った。

事務局：今、2人の委員からご意見をいただいたが、計画の方に、なくなった幼稚園をどうするのかまでは書けないと思う。ただ、廃墟にはやっぱりできないと思っている。原則は、廃止になった幼稚園というのは、廃墟にならないように、解体などを基本に考えていきたいと思う。ただ、今後地域の方に説明に行くことになるので、地域の方の要望とか、そういったところが出てくると思う。できること、できないことは出てくると思うが、そのあたりのご意見をしっかり参考にして、今後の活用は市の方で考えたいと思う。

委員長：次に、再編等の方向性（案）について、事務局から説明をお願いする。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、中学校区ごとに上から順番にご意見をいただいていいたいと思う。

A案、B案、C案あるが、この校区はA案で、この校区はC案で、という形でご意見をいただけたらよいと思う。

まず、志賀中学校区について、ご意見等あれば発言をお願いする。

委 員：全体的なバランスを見て志賀北と志賀南は余りにも遠すぎる。駅にして7駅ぐらい離れている。1つにまとめるには範囲が広すぎるので、B案やC案をベースに、あと、また見直しの中で、本当に園児数が1人や2人とかになったときはどうするのかというはあると思うので、先ほどお話した見直しというのは必要になるかと思うが、ベースはBとかCでいいのではないか。

委 員：この文章の中に、市立保育園があるということがあえて書かれているということは、そことの関係性がどうなっていくか分からぬが、事務局としては、そこも視野に入れているということか。

事務局：これまでの委員会でも何度かお話をさせていただいたが、あくまでこの検討委員会は幼稚園だけというところがベースにある中で、わざわざこういうのを書かせていただいているというところが、欄外の注2のところに関連する。

この注2のところはアスタリスクに関して書いているが、公立園同士の再編を検討する場合には、別途市立保育園のあり方も検討する必要があるという形で、この委員会の範囲内ではないが、そういうものを検討した上で、あり方を市の方で考えるという選択肢は残しているような形にしている。

委員長：幼稚園と保育所を合わせた公立同士の再編を将来は考える可能性があるという趣旨であった。

委 員：今、保育園の話が出たが、小中学校も人数が減ってきてていると思う。とすると、その小中学校の教育委員会との連携というのも、ゆくゆくは必要になってくるのかなということもあわせて考える。すごくかけ離れた場所に拠点があるとなると、そこも運営しにくかったり、交流しにくかったり、一緒に研究を進めていきにくかったりするのかなということもあるので、そのあたりも、いざれば連携をとりながら、進めていただけたらと思う。

委員長：では、真野中学校区、こちらの2つの幼稚園について、意見を頂きたいと思う。

委 員：前回もちょっと私の方から言ったが、距離的にはどうなのか。例えば、北と南は何キロ離れているとか。私が前回言ったのは、子どもが歩くエリアは何キロが限度かという部分からすれば、人数だけで減らしていくのか、やっぱり距離的な部分も含んで総合的な部分でこうですね、というのが一番検討しやすいと思うが、それがずっと出てこない。幼稚園児が朝、幼稚園に行く、歩く距離が、どれくらいが限度かを言ってもらった方が分かりやすい。活字だけ見ても、皆さん距離を理解していない。園児の数が減ってくる、増える減るの議論をするより、やっぱり子どもの目線に立って、毎日通うから、そういう観点からABCで振り分けたらどうかなという私の考え方である。

委員長：これは前から、通園をどう保障するかというところで議論がされている部分になると
思う。

委員：志賀中学校区の幼稚園は、両方ともバスを持っていて、走らせている。

委員長：そういう既に前例もあるということなので、そういうのも含めながらご意見いただき
たい。

委員：バスを持っているところを事務局の方で言ってもらいたい。

事務局：現在、幼稚園で通園バスを運行しているのが、上から順番に、志賀北幼稚園、志賀南
幼稚園、伊香立・真野北幼稚園、仰木の里幼稚園、坂本幼稚園になる。

委員：今の話でいくと、伊香立・真野北はバスがあるので、真野学区の子どもを迎えに行く
ことができるのかなというのと、学区もそんなに離れてはいない。また、真野学区内
によっては、堅田の方が近いなという方もいるかもしれないが、その場合は学区外の
申請をして通うことはできるのかなと思うと、C案になると思う。その先が堅田に集
約するのかどうかは分からぬが。とりあえずはC案にしておいて、減ってきたり、
B案になることとかA案になることもあるというような決め方でもいいのか。

委員長：議論して、再編するけれども状況によって変わるという前提がある。より近いものを
選ぶという形で、そのあと状況の変化で考える。公立の保育所の問題などを絡めなが
ら、修正はあるということになるかもしれない。

委員：伊香立・真野北幼稚園と真野幼稚園とで再編するのは良いかもしれないが、堅田幼稚
園と一緒にしてしまうと、堅田は、朝ものすごく道が混んでいると思う。それは、親
が送っていくにしても、バスの運行にしても、かなりのストレスになると思う。だか
ら、堅田幼稚園はなるべく単独にしておいた方がいいのかなと思う。

委員長：では、C案がいいというイメージになる。

委員：先程あったとおり、個人で行く幼稚園を選ぶというのはとてもいいかなと思うが、幼
稚園を合体させてという部分については、伊香立・真野北幼稚園が1つになったとこ
ろに真野幼稚園が行く方がいいかと思う。

堅田幼稚園は多分人数が多いと思うが、そこに他の幼稚園をくっつけるのはしんどい
かなと思う。

委員長：ではC案を採用する。

続いて、仰木中学校区について意見をお願いする。それぞれの園の特徴を説明いた
きたい。

委員：仰木の里の方がシンプルな園舎の形で、仰木の里東の方が少し凝った作りになっ
ていて。デザイン的には、ぱっと見たらすごくいいが、内廊下がカーブしており、ちょっ
と見通しが悪い。ただ、広いベランダのようなものがあって、雨の日でも遊べるとい

うのはある。

使いやすさから言うと仰木の里の方が見通しがよくて、子どもたちの遊びの様子が見やすいというところと、あと駐車場が仰木の里の方があるというのと、支所などが固まって存在しているというのである。

委 員：仰木の里東の方が新しいが、園庭の真ん中に築山があって遊べるとか、園庭の広さと使いやすさからいうと、仰木の里の方がいいと思う。それと、畠も借りたり、まだ仰木の方に面してるのが仰木の里である。だから連携的なことも含めて、教育的環境としては仰木の里の方がいいと思う。

委 員 長：利用者感覚としてはどうか？

委 員：距離的にはそこまで離れていない。仰木の里東から仰木の里には、どのようにして行くか？

委 員：バスが走っていて、駐車場もある。

委 員：仰木の里の方が中学校に近い。桜並木がすごく綺麗で、私だったら仰木の里に通いたい。

委 員：そもそも成り立ちは仰木から離れて仰木の里がでて、その次に仰木の里東ができた。仰木と仰木の里との一体感みたいなものがあって、仰木からいろいろなことを教えにお年寄りの方が来られたりとか、文化的な繋がりがある。仰木の里と仰木の里東も同じ新興住宅地の中ということで一体感があり、一緒になることに対してまだ理解があるかなと感じるのと、ちょうど中間点が仰木の里になるので、心情的にも、仰木の方々にもいいのではないかと思う。

委 員 長：A案かC案が良いという意見かと思う。

では続いて、日吉中学校区であるが、こちらは再編対象無しということで、皆さんからの意見も特ないので、続いて、唐崎、皇子山中学校区になる。唐崎は、方向性としては変わらないと思う。長等幼稚園について何か意見はあるか。

委 員：長等は大変難しい、教育環境としてはすごくいい。園舎もとても考えられて作られているし、園庭が本当にすばらしい。あのような園庭というのは、大津のどこもない。坂道になっていてそこでも遊べる。だから、これは本当に財産としては残したいと思うが、志賀を閉じて長等に来てくれるというわけにもいかないと思うので、大変考えるところである。

委 員：地図から見ると、長等から志賀は距離があるけど、打出中学校区の方が近い。学区だけではなく大胆にできないのか。

事務局：そういう考え方もある。いろいろな意見を出してもらえたと思う。

委 員：地図を見たら分かりやすい。例えば志賀南と真野も近いが中学校区が違う。

委員長：この表現の仕方は非常に難しい部分があるが、前から委員からご意見がある。小学校と違って、いわゆる制度上の学区制は基本的にはないのが幼稚園で、市民が選べるという形を何か報告書でしっかり押さえてもらえるといいと思う。園バスを走らせる地域も非常に難しい。

委員：園バスの考え方であるが、交通量が少ないところは、園バスがすごく回りやすいと思う。しかし、道路が狭かったり、交通渋滞が非常に多かったり、交通網が発達しているということであれば、必ずしも園バスにならない。それで渋滞の中走って子どもたちを待たせて、子どもたちを集めるバスの停留所まで行く時間が読めないことなどを併せて考えないといけない。

委員長：ベースは利用保障、市民の選択・利用者の選択というのをきっちり考えるということいかがか。

委員：中学校区でいくことが、子どもたちにとってスムーズに上に上がっていく、組織的に教育委員会的にもいいのかなという案もある傍らで、今の意見があったみたいに、学区を超えて、実際に子どもたちが通いやすいというのを選んで決めていく案もあって、もしもこの先、保育園があるからとかというのもあるのかと思うと、それも選択肢の中に場所によっては適用されると、いい意味で、皆が通いやすくて、小学校にも行きやすくなると思う。いろいろなことを配慮した中でも、場所によっては、必ず中学校区だけに縛られるのでもないことが必要になってくる場所があるのでないかなと、実際に1園、1園見ていく中で感じた。

あと、バスについては、場所によって、例えば再編していく中で、ここにはバスがあった方が良いことも含めて、バスを入れることは可能なのか。それはないのか。

事務局：通園バスについては、以前からちょっと提案等いただいているが、計画の中で、ここにバスを走らせるとするのは難しい。通園保障ということをしっかり書かせてもらひ、これから保護者の皆様、地域の皆様に説明に行く中で、ご要望とか、こういう交通手段がないと本当にこのエリアの人たちは困るのだとか、そういう意見をしっかり吸い上げて、市の方で検討していきたいと思う。

委員：基本、幼稚園は徒歩が理想でありながら、公立の役割としての必要性と、今決めているこの内容が、バスがあるからこうだと決まっていたりすることが、ちょっと危ないと感じる。逆に、バスがあったら変わってしまって、ゆくゆくバスが必ずあるのかとか、どんな基準で作られてきたとか。その決めていく中に、バスがある意味キーワードになってきているところに対して、ゆくゆくどうなのかというところが気になって言わせてもらった。

委員長：事務局からもあったが、通園保障と選択という2つのキーワードのことを頭に置いて

もらいたい。ただ、ここの園で、ここのエリアで走らせるというところまで決めるのは厳しいかなと思う。できる限り徒歩圏内が良いというところもよくわかるが、大津市だからそう言えていると感じる。近いほうが良いというのは当たり前で、それを、私立幼稚園であるとか、保育所や認定こども園がカバーしている。

市立幼稚園以外であったら、いくつくらいの小学校に子どもは行くのか。

委 員 : 学区内の小学校にほとんど行く。あとは、1つか2つくらいになる。

ちょっと今までの園児が多いときは、もう少し多かったりしたが、最近は多くて3つくらいである。

委 員 : うち7割ぐらいが地元の小学校に上がり、残りの3割ぐらいが他の小学校で、全体として7~8校に卒園していく。

委 員 長 : 都市部に行くと10いくつになる。同じ園出身の子が2人しかいませんというようなところもあり、そんなに違和感がない。大津市は、小学校区単位でやってきた良さがあり、保護者の方も当たり前と感じておられる。徐々にその辺りが崩れていく可能性もあると感じる。

委 員 : 志賀にするのか長等にするのかという議論の途中で違う話になってしまったので、このところを、今、案では志賀となっている。長等は教育環境として残して欲しいと思う。でも、第1段階で書いてあるところを残して、何も書いていない志賀を消すわけにもいかず難しいと思う。そこで、その校区にかかわらず、もう少し再編の方法を考えたらどうかと意見があったので、そこは検討事項みたいなことで残すわけにはいかないか。

事 務 局 : 長等を残すということになると、どう再編をしていくか。長等が再編の基準にかかっているので、どことあわせたらいいのかという議論になると思う。今の議論の流れから、志賀幼稚園を持ってくるのは、皆さん現実的ではないのかなと思われている。そうすると、他のやり方として他のところを長等に持って来て、集団規模を確保するしかないのかなと思う。それはどこになるのかというところになると思う。

委 員 : 地域的に言っても、今のところに幼稚園があるということが、すごく奇跡なぐらい良い環境であると思う。

どこの地域も、自分たちが住んでいるところの思いは、先生、園長先生などが、膝突き合わせて、自分たちの良いところを出した上で、どうしたらいいのだろうというところで、落としどころをつけないといけない話だと思う。通っている人の声や、住んでいる人の意見が反映されるべきで、自治会長さんや、園長先生、その該当する皆さんで話すしかどっちか選べないし、説明もつけられない。大津市がこういう意見があって、こうだみたいなことを決めていかないと、違う地域のことは私が言えない。

委 員：難しいと思う。例えば、地理的に言えば、長等を残すなら、逢坂と中央が近くにある。おそらく均等に分かれると思う。

委 員：あり方や再編については、もう何十年としゃべってきている。それこそ30年ぐらいか、もっとか。でも、やっぱりまとまらない。それは、みんな自分のところが残って欲しいと本音では思っている。本音では思っているが、やっぱり子どもたちのより良い教育環境のためには、何とかしなきゃいけないというのは、子どもたちの姿を見ていたり、教員の姿を見ていたりとか、園の姿を見ていると思う。それで自分のところに来てくれたらしいなどみんな思っているが、でもそれを言っていると本当に進まなくて、例えば膝を突き合わせて話したとして、意見がまとまるのかとか、物別れに終わるのではないかとか、やっぱりみんな自分が大事なので。そう思うと、委員の皆様には、ある程度進めないといけないのかなと思う。

事務局：長等幼稚園の特徴として、就学前の0歳から5歳までの子どもたちの人口が長等学区はそれほど減ってはいない点である。園児数としては、就園率を掛けているので減っているが、就学前人口としては長等はそれほど減っていないという状況がある。というのは、大津京駅前あたりのお子さんたちは京都へ行っておられるケースもあるということだけ1つ情報提供させていただく。

委 員：資料4を見ると、長等幼稚園は12年ごろに15人という数字が上がっている。これを見ると、このあたりまで残してもいいのではないかと思うが、それはどうか。まだこれから人が住んで、たくさん集まってくるかもしれないという見込みも入れて。もうちょっと先送りして、長等を置いておくという考え方をしてもらえないのか。

委員長：ピークで15人という推計値になっているところである。

事務局：今の意見について、長等学区に関しては、人口推計のもとでは、令和11年ごろから15名の園児数を予測しているが、これは大津京の旧イオン跡地のマンション建設が計画されているというところを勘案した数字になっている。言っていただいたように、どうなるか分からぬ。もっと増える可能性もあれば、思ったより増えないという可能性もある。

先ほど補足があったように、選択肢が他にもある状態で、素案の方にはこれまでの案でも触れている。素案の34ページに、これまで再編基準をご検討いただく中で、第1段階で再編を行う園というところで上から5行目6行目のところに、「その後園児数が増加に転じる推計の場合は第2段階とします」というただし書きが、これまでから書かれている。今あった意見をもとにご検討いただいて、A案、B案、C案にこだわらず、もう1つこんな方がいいんじゃないかという案をいただけるのであれば、そちらの方がいいかなと考えている。

委員長：A案、B案、C案にないもう一つの案として、第1段階では長等幼稚園を残すという案にしたいと思う。

それでは打出中学校区について、いかがか。逢坂幼稚園だけがアスタリスクが入っており、勘案事項のところにある公立園との関係を考慮する。いずれも再編の対象になる。

委員：事務局案のとおり、アスタリスクを残すという案でも良いのか？

事務局：残す案でも問題ない。アスタリスクを残した場合は、別途検討する必要があるというものを素案の方には書くという形になると思う。

委員長：ということなので、B案の方が、柔軟性があるかもしれないということだと思う。B案としてよろしいか。

委員長：では、栗津、北大路中学校に関連するところで意見をいただきたい。

最終的には膳所に集約するイメージとなっているが、晴嵐について少し検討課題がある。

委員：第2段階で膳所幼稚園に集約するという意見が良いのでは？

委員長：では、これはC案とする。

続いて、石山・南郷・田上・青山中学校区についてお願ひしたい。

結構、人が減っている状況が見てとれる。

委員：上田上にはすごくすてきな芝生があり、とてもすばらしい園であるが、残念ながら、園舎と空きスペースがあまりない。建物で考えると田上の方が、これから状況に対応できるかなと思う。駐車場もあるので。上田上にも駐車場があるのはあるが、スペースとして、なかなか部屋を増やしていくことが難しいと感じている。

委員：上田上はすごく地域をあげてPRしている。この間あるところに行ったら、こんなところに上田上幼稚園のPRが貼っているのかというぐらいに、地域をあげてすごく頑張っている。だけど、園舎が、今言われたように、部屋がない。もともと小さな園だったので、あそこにみんなを集めてくるとなると、建て替えや増築していかないといけない。でも敷地も狭い。芝生が敷いてあるからすごくいい感じであるが。園舎を建て直すという気持ちでやらないとできないと思う。みんな集まってきたら、部屋がない。遊戯室も狭い部屋である。もともと2クラスぐらいの規模の園だから。

一方で、田上は昔から9クラスぐらいだったので、空き教室がいっぱいあり、駐車場がある。上田上は地域との関係性がとても深い園なので、大変難しいとは思うが、教育環境だけ考えたら、田上のほうがいいと思う。

委員：芝生は1年あれば、頑張ったら敷ける。

委員：上田上は、管理を地元がしてくれている点も挙げられる。

委 員：地域のことを言うと、どこも地域がバックアップしてくれている。保護者の方もすごくバックアップしてくれている。

委 員：市役所が説明に行ったときに、地元が頑張っている上田上を残しますという説明はやりやすいと思うが、今お話を聞いていたら、環境的にいいのは田上幼稚園だと感じた。大石幼稚園をB案で残しているというはどういう意図か。人数がすごく少ないのでC案にしておく方が良いと思うが。

委員長：基準からしても下回っている状況で、あえて第1段階で残すというイメージにした理由はどうか。

事務局：前回までにもあったと思うが、大石というところがすごく遠いところにある。交通状況という視点でも考慮が必要な中で、B案であえて大石幼稚園を残したという理由は、できる限り遅らせるというところを配慮したものである。
ただ、意見があったとおり、すごく園児数が少なくなってきたというところで、子どもたちの学ぶ環境、経験する環境ということを考えて、ずっと残すというのは難しいのかなというのがB案もC案も共通している形になっている。

委員長：次の段階ではということで、5年間延ばす意味があるのか。第1段階で残して第2段階で再編する。残すことについてのこだわりはあるのか。

事務局：できる限り後ろにするという案と、最後まで残すという案を考えたが、今回C案で田上幼稚園の方に集まつもらうという案にしている。委員長ご指摘のとおり、その5年間できる限り後ろに持っていくのがよいのかどうかというところのご判断をいただければ、事務局としては良いかなと思う。

委 員：大石について、私たちの認識でも、やはり大石は少し特別で、そこからどこに行くにしても、園児もとても歩ける距離でどこかに行けるわけではない中で、南郷の方になるのかなと想像すると、それはちょっと現実的じゃないと思う。それと反対して、今すごく開発が進んで、どこかに繋がっていけるようになっているのか。

委 員：大石幼稚園の人はどういう通園方法になっているのか。曾束とか遠いところから来ている人はいないのか？

事務局：大石小学校について、かなり広域になるので、小学校にバスはある。どこのお子さんを乗せているかは把握していないが、確か学校の方では、学校からの通学距離が3キロか4キロを超えると、バスなり、通学手段の補助対応をすることになっているので、大石はその地域性を考慮して、小学校でバスを走らせるというような状況である。

委 員：何年か前は、小学校のバスに乗せてもらっていた。子どもが早く着くから、先生がそれにあわせて行っていた。今、バスを利用している子どもがいるかどうか分からないが。

事務局：今年の状況で言うと、徒歩で送迎の方と、個別でおそらく親御さんが車で送迎されている方、もしくは遠距離である富川とか曾束、小田原というところに関しては、自家用車で通園されている方が、若干名おられる。バスということは、今はないかなと思う。もし再編を実施した場合のことであるが、大石からはおそらく田上の方が抜けやすいのではないかと思っている。

委員：中学校は南郷中学であることから、そこら辺のイメージが、住民たちの意識と違うかもしれない。

委員：田上の方に行く道というのは、絶対に歩けない道で、車だけが通れる道ではないか。少し不便なところという印象が、大石や上田上の奥の方にあり、そこが少し考慮されるといいなと思う。

事務局：おっしゃるとおり、おそらく車でしか通れないような道というところで、今回事務局から説明したとおり、あくまで市立幼稚園はもともと徒歩通園が原則である中で、再編等を実施してしまうと当然距離が離れてしまう。これまでの検討委員会でもご意見があったように、そうなると歩くというのは現実的に厳しいところは当然出てくる中で、必ず通園保障というのを検討するというところを、素案の方にも書いている。ただ、その通園保障の種類が、駐車場になるのか、バスになるのか、その他の方法になるのかというところが、今、明確にここの園はこう、ここの園はこうというのは打ち出せないが、何かしら通園保障はするという前提のもとで、この方向性をご検討いただきたい。

委員：大石幼稚園は、最初は残しておいて、次に一緒になるときは、石山幼稚園ではなくて田上幼稚園の方が良いのでは。その辺りは道の状況や通園保障などを勘案して考えるといいのではないか。

委員：住民の人は石山に行くかもしれない、将来の中学校のことを考えて。

事務局：ただ、その石山と南郷に関しても中学校区は分かれる。石山中学校と南郷中学校という形で分かれてしまうところもある。ただ、おっしゃるとおり、住民の方がどちらが行きやすい、どちらを望まれるというところがあるのかなと思う。

委員：大石という土地柄、そこに住んでいる方は色々なことは覚悟されていると思う。それを念頭に住んでおられるので、比較的反対とかが、逆にそんなにないのかなと思う。だからこの5年のイメージのところに残しておくというのも、逆にどうなのか感じる。子どもがこれだけ少ないとから、早く再編をして、子どもがある程度人数の多いところに行って、豊かに育っていける方がずっといいのかなと思う。

委員：その意見についてはすごくよく分かる。ただ、その中に、保育園もない、幼稚園もない、もしかしたら車もない、支援の必要なご家庭でなかなか送り迎えが難しいとか、

そういうご家庭があるかもしれないと思うと、公立という役割から考えると、大石幼稚園があったところに、ここからならこの園にピストンしますというような、何か助けてあげる策を考えないと、この地域の方にとって気の毒かなと思う。その策があるのであれば、1か所に集約した方が、子どもたちにとっていい環境で教育が受けられるかなと思う。

委 員：田上とか大石の方は選ぶことを念頭にされていると感じる。どちらに集約しても、最終的には自分で選んで、動かれるのかなと思う。それプラス、大石に住んでいる時点で、車なしでは動けない生活なので、車がない人は多分いないと思う。子育て世代は特にそうだと思う。

委 員：大石の人が行くのは石山かな、田上には路線バス走っていないから。

委 員：大石の方は、生活としては石山の方に行くと感じる。

委員長：では、大石幼稚園はA案のイメージが良いと思う。

田上・上田上の部分については、園舎や駐車場の問題から田上幼稚園の方が良いという意見であったので、B案になると思う。

では、瀬田中学校区と瀬田北中学校区になる。再編を検討するのは、瀬田南幼稚園だけだと思う。

委 員：瀬田南は幼保一体型施設になっているので、C案としてはどうか。

委 員：そんなに待たず、早くすればよいと思う。

委 員：ここに関してはC案だと思う。

委 員：一通りできたかと思うので、事務局からまとめを言ってもらえるか。

事務局：上から順番に、

志賀中学校区は、C案の志賀北幼稚園、志賀南幼稚園の形にしておく。

堅田中学校区に関しても、C案の伊香立・真野北幼稚園と堅田幼稚園の形にしておく。

仰木中学校区はC案の仰木の里幼稚園とする。

日吉中学校区はそのままの状態とする。

唐崎・皇子山中学校区は、唐崎はC案、志賀幼稚園のところは、第1段階を志賀幼稚園と長等幼稚園の状態、第2段階で志賀幼稚園とする。

打出中学校区は、B案の逢坂幼稚園がアスタリスクで、あとは平野幼稚園とする。

栗津・北大路中学校区は、C案の第2段階で膳所幼稚園とする。

石山から青山の中学校区は、南郷と大石幼稚園はA案、田上・上田上・青山幼稚園はB案の形とし、石山と田上の両幼稚園になる。

そして瀬田中学校区、瀬田北中学校区は、C案となる。

委員長：という形で各最終確認させていただき、よろしいか。

(2) 閉会

以上